

三条市子ども・若者総合サポート会議 実務者会議（第1回若者支援部会）
（兼内閣府モデル事業第2回地方企画委員）議事録

日 時 平成22年1月19日（火）16時10分～17時30分

会 場 三条リサーチコア4階特別会議室

出席者 別紙名簿のとおり

次 第

- 1 あいさつ
- 2 各機関及び事務局紹介
- 3 議 事
 - (1) 三条市子ども・若者総合サポートシステムについて
 - (2) 若者支援部会について
 - (3) 情報交換
- 4 その他

議事要旨

- 1 挨拶 三条市教育委員会 教育部長 古川 聖登
- 2 各機関及び事務局紹介 各自自己紹介
- 3 議 事
 - (1) 三条市子ども・若者総合サポートシステムについて
 - 事務局説明
「三条市子ども・若者総合サポートシステム 支援者用マニュアル Ver. 1」（2～9、12・13ページ参照）に基づき、事務局（青少年育成センター）から説明
 - 質疑 無
 - (2) 若者支援部会について
 - 事務局から説明
「若者支援部会実務者会議 資料」に基づき、事務局（青少年育成センター）から説明
 - 質疑応答
 - ・青少年に診断を求められると困難な部分がある。その場合は専門医へ紹介したい。
(事務局)
そのように対応策をだしていただけると非常にありがたい。
 - ・県内の色々な民間団体があり、それぞれ得意な領域が異なる。リストアップされているのはあくまで公官庁であり、そういった民間機関も入れていくのか。
(事務局)
様々な取組をされているところがあれば、参加協力を呼びかけていきたい。
 - (3) 情報交換
 - ・義務教育の間は学校が情報を把握しているが、一度学校を辞めてしまうと手が届かなくなってしまうことがある。そういう場合にはどう対応すればよいのだろうか。
 - ・このメンバーの中では、若者サポートステーションがある程度担っている。単一機関を充実さ

せるか、他の複数の機関で対応するか、という話になってくると思う。また、その上で働く場所を提供する必要がある。

- 今サポステに来る子どもの様子を見ていると、まず働けない。学習塾に身に着けるプログラムを作ってもらふとかの手立てが必要だと思う。
- 軽度の障がいに対応する施設を病院が作るなど、色々な対応策を検討する必要があるのではないかな。
- サポートステーションは数がまだ少ない。地域事情に明るい民生委員の集まりに参加してサポステの活動を紹介した。高校も専門学校も出たが、社会に出たときに障がいには至らないが就労できない人が多くいる。来たはいいが、そのあとの出口が無い。
- 今までのシステムから外れている人をどうするか。知的レベルは高いが、社会不安と親の不干渉などの要因、軽度の発達障がいの人たちが社会参加するのは非常に難しい。